



滋賀県感染症発生動向調査 感染症週報

平成 30 年第 15 週 (4/9~4/15) 【概要版】

平成 30(2018)年 4 月 20 日発行 滋賀県感染症情報センター

1. コメント

- (1) 報告数が多かった疾患は、感染性胃腸炎です。
- (2) 流行性耳下腺炎は、過去5年の同時期と比べて非常に多く報告されています。
- (3) 沖縄県で継続的に報告されている麻しん(はしか)は、現在もアジアやヨーロッパ諸国等で多くの患者が発生している感染症です。ワクチンの追加接種の必要性をご確認(詳細版の「注目すべき感染症」もしくは添付のトピックスをご参照ください。)いただき、ゴールデンウィークを安全にご旅行ください。また、麻しん・風しん(MR)定期予防接種の対象者は早期の接種をお勧めします。

2. 報告数が多かった小児科定点把握疾患(五類感染症) (i)

(1) 滋賀県

疾病名	滋賀県						保健所別 (iv)						
	2週前	1週前	今週	警報 注意報 (ii)	例年より 多い (iii)	例年より 非常に多い (iii)	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
感染性胃腸炎	4.44	2.81	3.75				多	↑	↑		↑	多	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.16	0.88	0.91				多	↑		多	多	↑	多
インフルエンザ	2.02	0.83	0.51				多		↑	多		多	
流行性耳下腺炎	0.25	0.19	0.47		○	○		↑	多	↑	多	多	

(2) 前週の全国および近隣府県の状況(下線: 滋賀県よりも多い)

疾患	全国	滋賀県	大阪府	京都府	福井県	岐阜県	三重県
感染性胃腸炎	<u>4.29</u>	2.81	<u>4.97</u>	<u>4.56</u>	<u>5.50</u>	<u>4.21</u>	<u>4.69</u>
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	<u>1.87</u>	0.88	<u>1.68</u>	<u>1.05</u>	<u>4.14</u>	<u>0.68</u>	<u>2.31</u>
インフルエンザ	<u>2.00</u>	0.83	<u>0.86</u>	<u>1.16</u>	<u>4.22</u>	1.33	<u>1.06</u>
流行性耳下腺炎	0.14	0.19	0.09	0.03	<u>0.23</u>	0.17	0.18



3. 全数把握疾患(滋賀県、今週診断例)

疾病名	滋賀県						保健所別						
	2週前	1週前	今週	例年より 多い (iii)	例年より 非常に多い (iii)		大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
結核	2	2	13				3	5		1	2	1	1
水痘(入院例)	1	0	1	○	○		1						
百日咳	2	0	2	-	-		2						

- i. 定点把握疾患: 人口及び医療機関の分布等を勘案して滋賀県が定めた患者定点(医療機関)で患者を診断した場合に、週単位で保健所へ報告される感染症を言い、報告された症例数を患者定点の数で除した「定点当たり報告数」により、発生状況を把握
- ii. 警; 警報発令、注; 注意報発令
- iii. 今週の値が過去5年の同時期(全数把握疾患は同時期の累積報告数)の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、「平均値+2×標準偏差(SD)」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」で標記(定点把握疾患の平均値は過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均を利用)
- iv. 「警; 警報開始基準値を超過」、「注; 注意報基準値を超過」、「多: 今週の滋賀県の値よりも多い」、「↑: 前週比増加」(「警報」、「注意報」、「多」、「↑」の順に優先して標記)

滋賀県感染症発生動向調査 感染症週報

平成 30 年第 15 週 (4/9~4/15) 【詳細版】

平成 30(2018)年 4 月 20 日発行 滋賀県感染症情報センター

1. コメント(概要版より再掲)

- (1) 報告数が多かった疾患は、感染性胃腸炎です。
- (2) 流行性耳下腺炎は、過去5年の同時期と比べて非常に多く報告されています。
- (3) 沖縄県で継続的に報告されている麻疹(はしか)は、現在もアジアやヨーロッパ諸国等で多くの患者が発生している感染症です。ワクチンの追加接種の必要性をご確認(詳細版の「注目すべき感染症」もしくは添付のトピックスをご参照ください。)いただき、ゴールデンウィークを安全にご旅行ください。また、麻疹・風しん(MR)定期予防接種の対象者は早期の接種をお勧めします。

2. 定点把握疾患(五類感染症)の定点当たり報告数(全国は前週の値) i, ii, iii, iv

定点区分 (定点数)	疾病名	滋賀県			保健所別 (iv)									全国 (前週 (iv))	基準値			
		2週前	1週前	今週	警報 注意報 (ii)	例年より 多い (iii)	例年より 非常に多い (iii)	大 津 市	草 津	甲 賀	東 近 江	彦 根	長 浜		高 島	警報 開始	警報 終息	注意報
インフルエンザ (定点数:53)	インフルエンザ	2.02	0.83	0.51				0.64	0.20	0.29	0.75	0.43	1.00	0	2.00	30	10	10
	RSウイルス感染症	0	0.13	0.19		○	○	0	0.17	0.25	0.20	0	0.25	1.00	0.32	—	—	—
	咽頭結膜熱	0.13	0.19	0.13				0.29	0	0	0	0	0	1.00	0.25	3	1	—
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.16	0.88	0.91				1.00	0.67	0.25	1.60	1.00	0.75	1.00	1.87	8	4	—
	感染性胃腸炎	4.44	2.81	3.75				6.29	2.67	2.50	3.60	1.75	6.25	0	4.29	20	12	—
	水痘	0.13	0.44	0.47				0.86	0.50	0	0.60	0.25	0.50	0	0.35	7	4	4
	手足口病	0.06	0.13	0.19				0.29	0.17	0	0.20	0	0	1.00	0.17	5	2	—
	伝染性紅斑	0	0	0.25				1.00	0	0	0	0	0.25	0	0.08	2	1	—
	突発性発しん	0.44	0.25	0.41		○		0.86	0	0.50	0.60	0	0.50	0	0.42	—	—	—
	ヘルパンギーナ	0	0	0.03				0.14	0	0	0	0	0	0	0.02	6	2	—
眼科 (定点数:8)	流行性耳下腺炎	0.25	0.19	0.47		○	○	0	0.17	1.75	0.20	0.50	1.00	0	0.14	6	2	3
	急性出血性結膜炎	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0.02	1	0.1	—
	流行性角結膜炎	0.75	0.25	0.13				0	0	0	0	0	0	1.00	0.72	8	4	—
基幹 (定点数:7)	細菌性髄膜炎	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0.02	—	—	—
	無菌性髄膜炎	0.14	0.14	0				0	0	0	0	0	0	0	0.02	—	—	—
	マイコプラズマ肺炎	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0.13	—	—	—
	クラミジア肺炎(オウム病)	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0.02	—	—	—
	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	0	0.14	0				0	0	0	0	0	0	0	0.42	—	—	—
	インフルエンザ (入院例に限る)	0.57	0.14	0				0	0	0	0	0	0	0	0.42	—	—	—

i 定点把握疾患:人口及び医療機関の分布等を勘案して滋賀県が定めた患者定点(医療機関)で患者を診断した場合に、週単位で保健所へ報告される感染症を言い、報告された症例数を患者定点の数で除した「定点当たり報告数」により、発生状況を把握しています。

ii 定点当たり報告数が「警報開始基準値」を超える全ての保健所の管内人口の合計が、県人口全体の30%を超えた場合に滋賀県全域に警報を発令(「警」)します。また、定点当たり報告数が「注意報基準値」を超えた場合に注意報(「注」)を発令します。

iii 今週の値が過去5年の同時期(全数把握疾患は同時期の累積報告数)の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、「平均値+2×標準偏差(SD)」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」で標記(定点把握疾患の平均値は過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均を利用)

iv **赤字斜字**:警報開始基準値を超過、**紫字斜字**:注意報基準値を超過

4. 定点把握疾患(五類感染症)の年齢階級別報告数 (滋賀県、今週)

インフルエンザ定点 (53医療機関)	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳～
インフルエンザ	27	1	2	3	2	-	-	1	-	-	-	2	1	4	-	4	2	2	1	2	-
大津市保健所	7	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	2	-	1	-	-	-
草津保健所	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-
甲賀保健所	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-
東近江保健所	6	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-
彦根保健所	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-
長浜保健所	7	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	1	-	-	1	-
高島保健所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

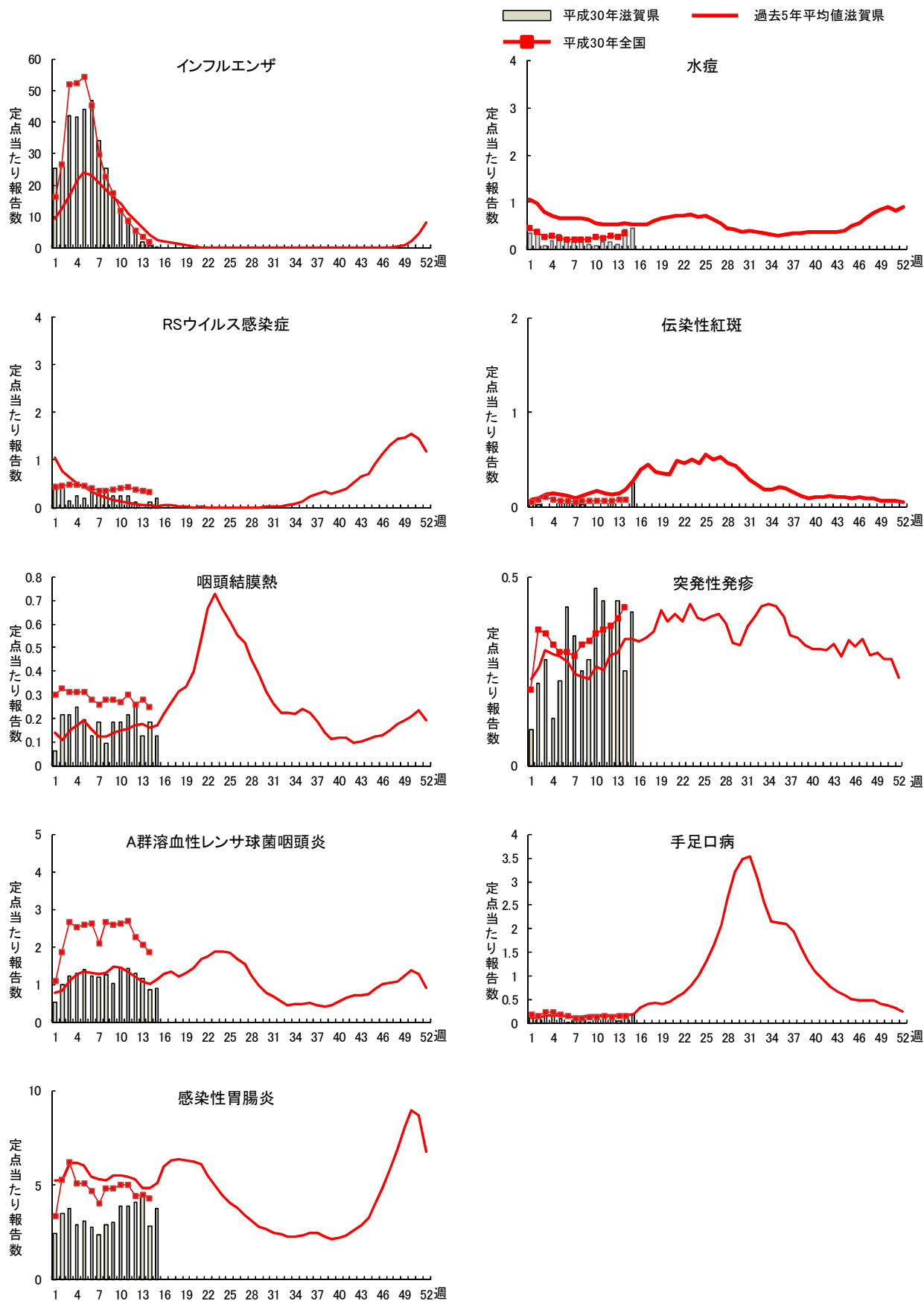
小児科定点 (32医療機関)	総数	0～5ヶ月	3～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～
RSウイルス感染症	6	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱 (プール熱)	4	-	-	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	29	-	-	3	5	6	4	1	1	2	1	2	-	4	-
感染性胃腸炎	120	3	9	13	15	11	10	15	10	6	2	2	12	-	12
水痘	15	-	-	2	1	-	1	-	2	1	4	-	2	-	2
手足口病	6	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑 (リンゴ病)	8	-	-	1	-	-	-	-	1	3	3	-	-	-	-
突発性発しん	13	-	6	6	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	15	-	-	1	-	-	4	7	-	1	2	-	-	-	-

眼科定点 (8医療機関)	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

基幹定点 (7医療機関)	総数	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

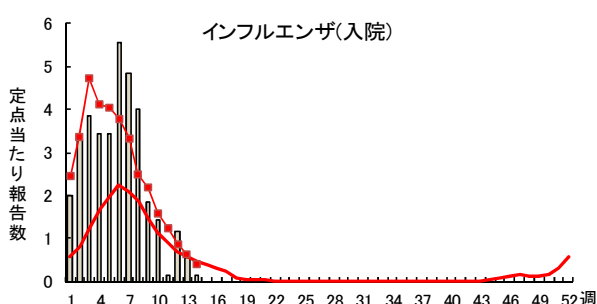
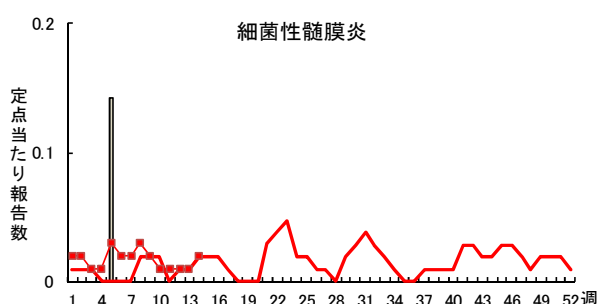
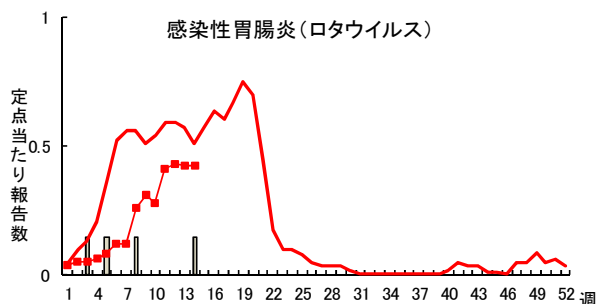
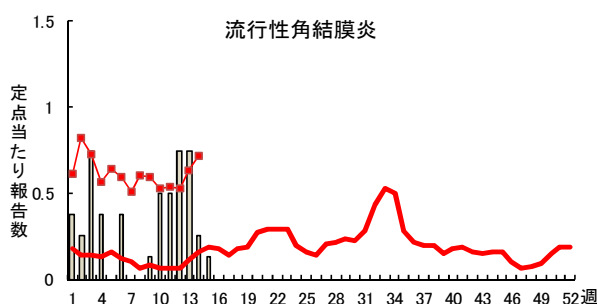
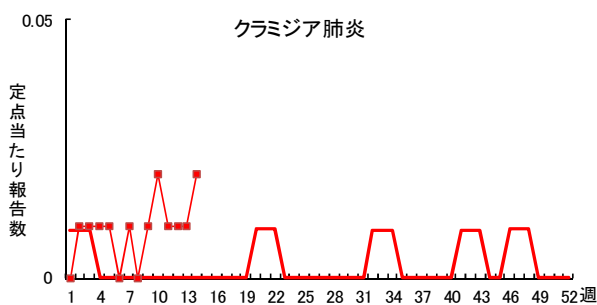
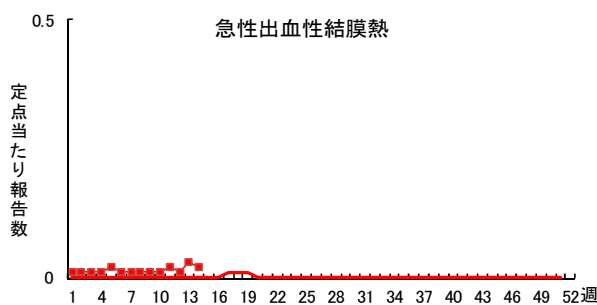
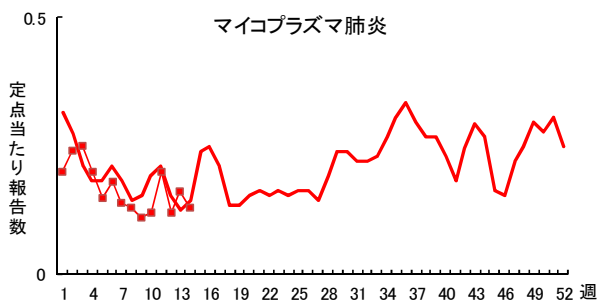
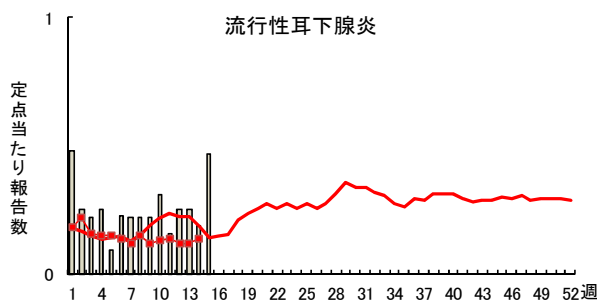
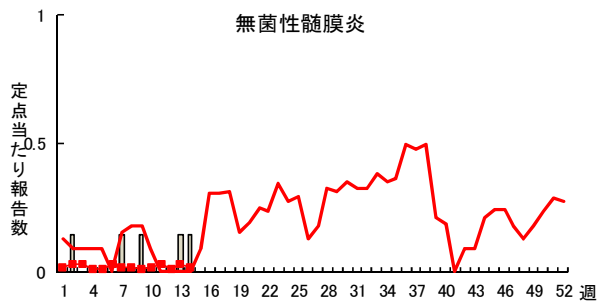
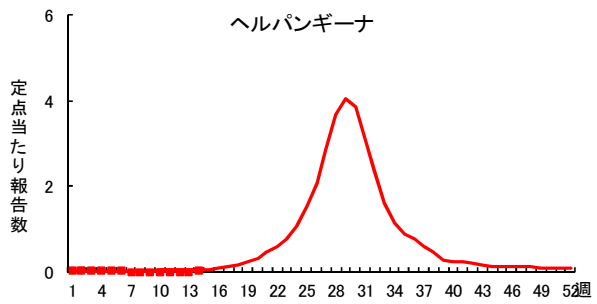
「-」: 報告なし

5-1. 定点把握疾患(五類感染症)の発生動向(全国は前週まで掲載)



5-2. 定点把握疾患(五類感染症)の発生動向(全国は前週まで掲載)

平成30年滋賀県
 過去5年平均値滋賀県
 平成30年全国



6. 全数把握疾患 詳細情報(今週報告例) [▽]

類型	疾患	診断週	保健所	年齢	性別	病型等	推定感染地	病原体等
二類	結核	15	大津市	80歳代	女	無症状病原体保有者	県内	-
	結核	15	大津市	30歳代	女	気管支結核	大津市保健所管内	-
	結核	15	大津市	60歳代	男	盲腸結核	-	-
	結核	15	草津	20歳代	女	無症状病原体保有者	-	-
	結核	15	草津	80歳代	男	結核性胸膜炎	大津市保健所管内	-
	結核	15	草津	90歳代	女	肺結核	-	-
	結核	15	草津	20歳代	男	肺結核	-	-
	結核	15	草津	80歳代	女	粟粒結核	国外	-
	結核	39	草津	70歳代	女	無症状病原体保有者	県内	-
	結核	15	東近江	70歳代	女	結核性胸膜炎	県内	-
	結核	14	彦根	70歳代	男	結核性胸膜炎	彦根保健所管内	-
	結核	15	彦根	80歳代	男	肺結核	-	-
	結核	15	彦根	80歳代	男	肺結核	-	-
	結核	15	長浜	70歳代	男	結核性胸膜炎	-	-
	結核	15	高島	50歳代	女	無症状病原体保有者	高島保健所管内	-
五類	水痘(入院例)	15	大津市	10歳代	男	検査診断例	国外	2回接種
	百日咳	15	大津市	10歳未満	女	-	大津市保健所管内	DPT3回接種
	百日咳	15	大津市	10歳代	男	-	県内	DPT4回接種

注目すべき感染症 麻しん

沖縄県で継続的に報告されている麻しん(はしか)は、現在もアジアやヨーロッパ諸国等で多くの患者が発生している感染症です。ワクチンの追加接種の必要性をご確認いただき、ゴールデンウィークは安全にご旅行ください。(ワクチン効果は接種後2週間ほど経過してから期待できます)。

海外旅行者の増加とともに、帰国後に麻しんを発症する方の増加が予想されます。麻しん患者のさらなる発生に備えて、定期接種対象者の1歳と小学校入学1年前の幼児は早期の予防接種をお勧めします。

■ゴールデンウィークにおける海外での感染症予防について(厚生労働省)

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/travel-kansenshou.html

■沖縄県へのご旅行・ご出張を予定されている皆様へ(沖縄県保健医療部地域保健課)

http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/chiikihoken/kekaku/press/documents/kankoqa180414_2.pdf

■麻しん 風しん混合(MR)ワクチン接種の考え方(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/655-disease-based/ma/measles/idsc/7982-mrvaccine2018.html>

■麻しん(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html>

■Global Measles and Rubella Update(2018 April, WHO)

http://www.who.int/immunization/monitoring_surveillance/burden/vpd/surveillance_type/active/Global_MR_Update_April_2018.pdf?ua=1

[▽] 感染症発生動向調査事業において、一～四類および五類感染症の全数報告対象の感染症が、診断した医師から最寄りの保健所へ届出されています。

7. 全数把握疾患の累積患者報告数 保健所別(平成 30 年、全国は前週までの値) vi,vii

疾患	滋賀県			保健所別累積報告数							全国	昨年累積報告数	
	例年より多い	例年より非常に多い	累積報告数	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	(前週)	滋賀県	全国
二類 結核			56 3.96	17 4.98	18 5.30	2 1.39	6 2.62	6 3.84	4 2.58	3 6.17	5323 4.20	251 17.76	22806 17.97
三類 細菌性赤痢			0	0	0	0	0	0	0	0	53	0	141
腸管出血性大腸菌感染症			1 0.07	0	0	0	1 0.44	0	0	0	172 0.14	41 2.90	3890 3.06
四類 E型肝炎	○	○	1 0.07	0	0	0	1 0.44	0	0	0	87 0.07	0	303 0.24
四類 A型肝炎			0	0	0	0	0	0	0	0	158	5	282
重症熱性 血小板減少症候群			0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	90
チクングニア熱			0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	5
つつが虫病			0	0	0	0	0	0	0	0	41	1	439
デング熱			0	0	0	0	0	0	0	0	28	0	245
日本紅斑熱			0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	337
レジオネラ症			2 0.14	0	1 0.29	0	0	1 0.64	0	0	272 0.21	20 1.42	1722 1.36
五類 アメーバ赤痢			0	0	0	0	0	0	0	0	206	8	1077
ウイルス性肝炎			0	0	0	0	0	0	0	0	40	4	289
カルバペネム耐性 腸内細菌感染症	○		3 0.21	0	0	0	3 1.31	0	0	0	403 0.32	13 0.92	1634 1.29
急性脳炎	○		3 0.21	1 0.29	2 0.59	0	0	0	0	0	262 0.21	4 0.28	688 0.54
クロイツフェルト・ヤコブ病	○		2 0.14	1 0.29	0	0	0	0	0	1 0.65	52 0.04	2 0.14	198 0.16
劇症型溶血性 レンサ球菌感染症			2 0.14	1 0.29	0	0	0	0	1 0.65	0	227 0.18	15 1.06	573 0.45
後天性免疫不全症候群			0	0	0	0	0	0	0	0	313	10	1374
ジアルジア症			0	0	0	0	0	0	0	0	21	1	60
侵襲性 インフルエンザ菌感染症	○		2 0.14	0	1 0.29	0	0	0	1 0.65	0	129 0.10	3 0.21	370 0.29
侵襲性肺炎球菌感染症			10 0.71	5 1.47	1 0.29	1 0.69	1 0.44	1 0.64	1 0.65	0	1079 0.85	47 3.33	3145 2.48
水痘(入院例)	○	○	2 0.14	2 0.59	0	0	0	0	0	0	89 0.07	4 0.28	309 0.24
梅毒	○		4 0.28	2 0.59	2 0.59	0	0	0	0	0	1533 1.21	28 1.98	5770 4.55
播種性クリプトコックス症			0	0	0	0	0	0	0	0	43	2	134
破傷風			0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	124
百日咳	—	—	14 0.99	14 4.10	0	0	0	0	0	0	835 0.66	—	—
風しん			0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	93
麻しん			0	0	0	0	0	0	0	0	42	1	189
薬剤耐性 アシネトバクター感染症			0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	28
			0	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0	0.02

vi 今年第 1 週以降に診断された感染症の累計報告数を全国、滋賀県および保健所別に示しています。上段に今年の「累積報告数」、下段に「人口 10 万人当たりの累積報告数」を記しています。

vii 今年と過去 5 年の同時期の累積報告数の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、または「平均値+2×標準偏差(SD)」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」で標記

【参考】今週の学校欠席者情報収集システム(保育園サーベイランス含む)概況(滋賀県、今週

滋賀県では、園および学校等により、感染症による欠席者等の情報を学校等欠席者・感染症情報収集システム (https://scl11.953862.net/schoolkoukai/view_all.php) へ毎日入力いただいています。入力いただいたデータを、本感染症週報と同期間について、集計して掲載しています。

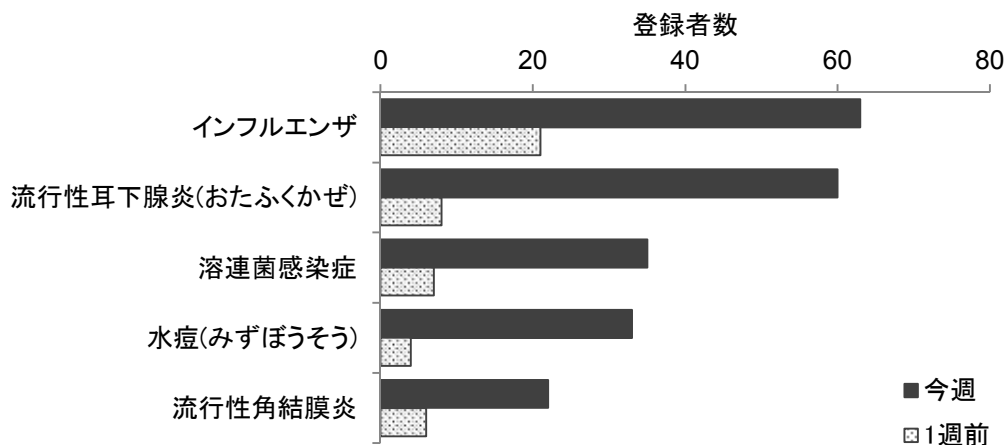


図. 学校欠席者情報収集システム(保育園サーベイランス含む)において登録数の多い疾患
横軸:登録数

【全国情報】 国立感染症研究所 感染症疫学センターHP に掲載されています。

感染症発生動向調査 週報(IDWR)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html>

病原微生物検出情報(IASR)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr.html>

インフルエンザ様疾患発生報告(学校欠席者数)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/flu-flulike.html>

【届出対象疾患】 厚生労働省 HP に掲載されています。

感染症法に基づく医師の届出のお願い

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/kekkaku-kansenshou11/01.html

滋賀県感染症発生動向調査週報は、感染症法に基づいて県内の医師、定点医療機関および県内各保健所より報告されたデータを用いて、滋賀県衛生科学センター健康科学情報係において作成しています。

本情報は滋賀県感染症情報センターホームページに掲載しております。

滋賀県感染症情報センターHP

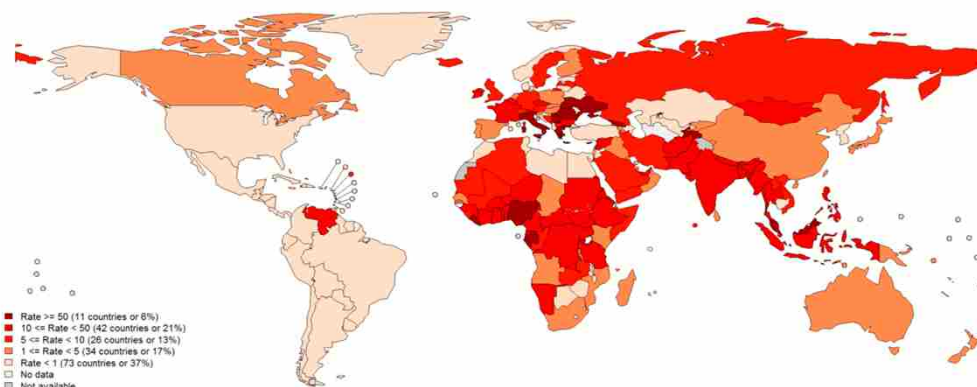
<http://www.pref.shiga.lg.jp/e/ef45/kansen-c/index.html>



イラストは滋賀県健康づくりキャラクター「しがのハグ&クミ」

ゴールデンウィーク（GW）前に 麻疹（はしか）に備えてください

1. ゴールデンウィーク（GW）中の安全な旅行のために、麻疹ワクチンの追加接種の必要性をご確認いただくことをお勧めします。
2. 定期接種対象者の1歳と小学校入学1年前の幼児は、GW後の麻疹の発生に備えて早期の予防接種をお勧めします。
3. 流行地訪問後もしくは麻疹患者と接触した後、約10日後に風邪症状や発疹を認めた場合は、事前に電話連絡してから医療機関を受診してください。



過去1年間の麻疹の発生状況（色の濃度は人口当たりの報告割合を示します） Global Measles and Rubella Update(2018 April, WHO)
http://www.who.int/immunization/monitoring_surveillance/burden/vpd/surveillance_type/active/Global_MR_Update_April_2018.pdf?ua=1

どんな病気？

流行地域	アジア、アフリカやヨーロッパ等の様々な地域
感染経路	現在、沖縄県で継続的発生 空気感染、飛沫感染、接触感染
潜伏期間（感染から発症までの期間）	約10日
症状	発熱、結膜充血、咳、鼻水、全身の発疹
合併症	肺炎、中耳炎、亜急性硬化性全脳炎

予防方法

1. ワクチンの接種が効果的である。
2. ワクチンの効果は接種の後約2週間後から期待できる。
3. 手洗いやマスクなどによる予防は期待できない。

ワクチン接種を検討ください

1. 定期予防接種者
 1. 1歳児
 2. 今年度6歳になる児
2. 定期接種対象者以外

海外旅行もしくは国内旅行を予定している方のうち

 1. 今年度に2～5歳になる幼児で、麻疹含有ワクチン未接種あるいは接種歴不明者
 2. 小学生以上の方で、麻疹含有ワクチン未接種あるいは1回接種あるいは接種歴不明者

過去に麻疹と診断されたこともしくは2回のワクチン接種歴を記録により確認できた方は、追加接種は不要です。発熱時、妊娠時等は接種できません（詳細は下の資料をご覧ください）。



麻疹風しん混合（MR）ワクチン接種の考え方（国立感染症研究所）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/655-disease-based/ma/measles/idsc/7982-mrvaccine2018.html>